

昭和から平成、そして令和へ

“人に出来ないことが出来なくてもいい。誰でも出来ることを確実に成し遂げていくことが大事なんだ。”

これは、最近観たテレビドラマの中で耳にした言葉です。中間管理職が新入社員研修で語ったものだったと記憶しておりますが、なかなか良い言葉だと思いました。

現代は、それこそその凄いスピードで社会構造が変化しています。昭和の時代の小学生だった頃、「ウルトラセブン」の地球防衛軍隊員が手にしていた腕時計型のテレビ電話を憶えておいででしょうか。あの頃はいつになったら本当にこんなものを手にすることが出来るんだろうと、自分が生きている間には実現することはないであろう未来に憧れていました。パーソナルコンピュータ等の歴史はどのくらいの速度で変遷していったのでしょうか。

- ・昭和30年代～40年代：そろばん（計算尺もありました）
- ・昭和40年代後半～50年代前半：発光ダイオード式電卓、タイガー計算機
- ・昭和50年代後半：たたみ一畳程の場所を占拠した初期の「IBM電算機本体」
- ・昭和50年代後半～60年代前半：8～16ビットパソコン（この頃から個人で保有し始めた）
- ・昭和60年代前半：ワードプロセッサ（パソコン機能の付いていない専用機）

etc.

平成に入ってから技術革新は加速度的に早くなって、もう追いつけません。ただ何となく憶えているのは、平成初期にパソコン機能がどんどん大容量化・モバイル化（小型化）していったにも拘らず、OSにも余分な機能が付くとともに計算ソフトも複雑化（欲張り化？）し、容量が大きくなった割には正比例で高速化していかなかったことに不満を感じたことです。現在ではほとんどの人が、「ウルトラセブンの腕時計型テレビ電話」を「携帯電話：スマホ」として持ち歩き所有しています（もっと多彩な機能付きで）。通勤電車の中では7～8割以上の人がこの必須アイテムの画面を食い入るように直視し、これを見た時代遅れの私としては、“なんか、結局のところ時間が動いてないなあ・・・！”と奇妙に感じたものです。

こうしてみると平成（これは日本でのみ通用する暦ですが）の30年余りは、あらゆる意味で大きな変革をもたらした時代と云えます。ただしこの時代、物質文明は巨大化・肥大化したものの、それを制御する筈の「人の心」も同様に醸成されたのでしょうか。私にはこの時代に人類が自らをも制御することを放棄してしまったように思えます。『抑止力』というご都合主義的な文言の裏に隠れて、ほとんど使用することのない“巨神兵”（映画「風の谷のナウシカ」の中に登場する）の開発・保持などはその最たる例であると思います。最近のテレビニュースの始まりは、某国での戦闘で無残に破壊された市街地や失われた尊い命を悼むものばかりです。わが国では自然災害によってもたらされた被災地の報道はあっても、人が自らの手で破壊したインフラを見ることはまずありません。一刻も早い平和が戻ることを祈るばかりです。

話は変わり私事で恐縮ですが、所属する会社が一昨年の5月に新社屋に移転しました。その折に多くの関係者の方から新社屋落成祝いに花をいただきました。ほとんどが見事な胡蝶蘭です。その胡蝶蘭は一カ月程社内に飾られた後、希望する社員に分与され、私もそのご相伴に預り、割と大きな鉢を自宅に持ち帰りました。ほとんど植物には興味のない私ですが、家内は図書館・ネット等で熱心に育て方を調べ、水のやり方、日光の当て方に日夜奮闘しておりました。

我が家に来た胡蝶蘭は実は三株が一鉢にまとめられたもので、それを三つの鉢に分けて育てました。昨年3月、そのうちの一株だけに蕾ができ、ついに待望の花を咲かせました。最終的には最初の開花から約一月半後に10個の花を咲かせ、私のような花鳥風月には凡そ程遠い志向のものに対しても“心を和やかに”させてくれました。そして今年は何と三株とも2月頃から蕾が付き初め、4月7日に最初の開花がありました。嬉しいものです。植物にこれほどの感慨を持つ自分にもびっくりしています。

齢を重ねるとともに経験値が上がるのは当たり前ですが、自らを振り返ればやはり階段は一步一步上がってきたのだということを忘れがちです。人は常に現在から過去、あるいは未来を見ていることがほとんどで、過去の自分から現在を見る、ということはなかなか無いように思います。

そして冒頭の言葉ですが、まずはやるべきこと＝基本として修得しておくこと、を確実に成し遂げるようにしてから次のステップに向かうことが肝要であるということを出しました。どんなに時代が便利になったとしても、それはワープしてそうなったのではなく、弛まぬ努力の賜物であるということをお忘れはいけません。もっとも、昭和を生きた人には今の物質文明が必ずしも便利な物であるとは言い難いのですが、平成生まれ・育ちの人たちには、例えば“スマホ”は当り前のアイテムであり、特に凄いものではないのだと思います。

“昭和の頑固爺い”が“令和の好々爺”として、L R R Iの社是である、「先義後利」を以って“共助と自他共栄”を目指し、自然と共生しながら「国土強靱化」の一助となりたいと考えております。

“昭和は遠くなりにはけり、否、昭和の魂は未だ心の根っこに息づいている“

(理事 伴 夏男)

